

ご挨拶

コロナ禍での卒業生の皆様からのご支援への感謝

教育学部同窓会（京友会）副会長 楠見 孝

昨年度から、山崎高哉同窓会会長のもとで、副会長を務めています楠見です。あわせて教育学研究科長・教育学部長を務めています。どうぞよろしくお願ひします。

昨年からのコロナ禍はいまだ続いているため、卒業生の皆様は制約の多い日々を過ごしておられると思います。京都大学の学生、教員も、これまでとは異なる大学生生活が1年半以上続いています。

本年4月には、入学式をみやこメッセで、午前は今年度入学者、そして、午後は昨年度入学者を対象に2年ぶりにおこないました。授業は、対面方式でスタートしましたが、4月下旬からは感染状況拡大によりオンライン方式に移行し、6月下旬からは一部対面授業を再開し、オンラインを組み合わせたハイブリッドでの授業もおこなっています。そして、一部の学生は、保護者やアルバイトの収入減により、経済的に苦しい状況におかれています。

卒業生の皆様には、昨年度からのコロナ禍に困窮する学生のための「京友会緊急生活支援事業」に対してご支援いただき、誠にありがとうございました。これまで本年8月までに6回にわたって給付ができました。これは、他学部にはない独自の給付金であり、ご協力を賜りました皆様には大変感謝しています。後輩への温かい思いやりに改めましてお礼申し上げますとともに、コロナ禍が続く今後も給付を続けますので、ご支援をよろしくお願ひします。

7月の京友会の総会は、会場参加とオンライン参加を組み合わせたハイブリッドでおこなわれました。そして、若い世代からシニアの世代まで、幅広い卒業生が集うことができました。特筆すべきことは、京友会からの学部生向け活動支援事業によって編纂された教育学部祭二十周年記念誌についての発表が

あったことです。そこでは、教育学部祭が、学部生の交流の場、そして、卒業生の帰ってくる場所として発展し、教育学部における縦と横のつながりに基づく、よき伝統が受け継がれていることを示されていた。中心になって活動し、記録をまとめたいただいた学生と卒業生の皆さんに感謝しています。来年度の総会では、2年ぶりに、幅広い世代が会場に集うことができると考えています。

なお、京大は来年6月に125周年を迎えます。それに向けて、同窓会を通して寄付をお願いしていますが、多くの皆様から寄付をいただいていますこと、感謝申し上げます。これらは、さっそく大学からのコロナ禍の学生への経済支援に充てるとともに、来年6月の125周年の複数の行事、そして、教育環境の改善に活かす予定です。寄付は来年6月まで受け付けていますので、どうかよろしくお願ひいたします。

最後に、卒業生の皆様への大学院の社会人入学のすすめです。修士課程には、社会人を対象とした教育実践指導者養成プログラム（修士）などがあります。また、博士課程は、コースワーク（授業の履修）ではなく、研究指導に基づくため、社会人でも学習をしやすいです。さらに長期履修制度によって、2倍の標準修業年限で修了することができます。実務経験に基づいて専門性を深めたい方は、母校の大学院への入学をぜひ考えてみてください。

教育学部・研究科で学んだ心や人間・教育に関する知識は、コロナ禍の困難を乗り越える際に、活かせる部分があると考えます。卒業生の皆様におかれましては、健康リスクに対処しつつ、よりよい生活に向けて、日々活躍されることを願っています。

令和3年度 京都大学教育学部同窓会総会報告 令和3年7月4日(日)

京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール I (Zoomによるハイブリッド開催)

* 役員会

* 総 会

議 案

1. 令和2年度事業報告
2. 令和2年度会計報告・会計監査報告
3. 令和3年度事業計画
4. 令和3年度予算
5. 70周年記念事業の規約
6. 40周年記念事業における寄贈図書について
7. その他

総会報告事項

* 令和2年度事業報告

1. 令和2年度実施事業報告

〈同窓会〉

令和2年7月4日

役員会・総会・親睦会 (オンラインにて開催)

令和2年11月 『会報』発行 (第37号)

令和3年3月24日

卒業生・修了生歓送会中止 (卒業証書授与式で記念品贈呈)
役員会 (オンラインにて開催)

令和3年6月17日

新入生・編入生歓迎交流会 (オンライン)
通年 ホームページ

〈70周年記念事業〉

令和2年7月4日 令和元年度国際賞表彰

令和2年7月5日～平成3年3月31日

令和2年度京友会研究助成事業

令和3年2月1日～2月21日

国際賞募集 (令和3年度)

在学生活動支援事業募集 (令和3年度)

令和3年5月

京友会研究助成事業募集 (令和3年度)

令和3年6月4日

京友会国際賞審査会 (令和3年度)

令和3年6月3日

京友会研究助成審査会 (令和3年度)

〈京友会学生生活支援事業〉

令和2年8月～令和3年5月 支援金のご寄附受付

令和2年9月 京友会緊急生活支援事業 第2弾

令和2年12月 京友会緊急生活支援事業 第3弾

令和3年3月 京友会緊急生活支援事業 第4弾

令和3年5月 京友会緊急生活支援事業 第5弾

(新型コロナウイルス感染拡大に伴う学生支援の対応として)

2. 国際交流事業 (国際賞の選定・授与)

3. 令和2年度 研究助成事業報告

4. 令和3年度 研究助成事業選考決果

* 令和3年度事業計画

〈同窓会〉

令和3年7月4日

役員会・総会・親睦会 (ハイブリッドにて開催)

令和3年11月 『会報』発行 (第38号)

令和4年3月24日 卒業生・修了生歓送会・役員会

令和4年4月 新入生・編入生歓迎交流会
通年 ホームページ

〈70周年記念事業〉

令和3年7月4日 総会にて令和2年度国際賞表彰

令和3年7月5日～平成4年3月31日

令和3年度京友会研究助成事業

令和4年2月1日～2月20日

国際賞募集 (令和3年度)

令和4年2月1日～2月20日

在学生活動支援事業募集 (令和4年度)

令和4年3月

在学生活動支援事業審査会・

役員会でのプレゼンテーション

令和4年5月

京友会研究助成事業募集 (令和4年度)

令和4年5月 京友会国際賞審査会 (令和3年度)

令和4年5月 京友会研究助成審査会 (令和4年度)

〈京友会学生生活支援事業〉

令和3年8月 京友会緊急生活支援事業 第6弾

令和3年11月 京友会緊急生活支援事業 第7弾

令和4年2月 京友会緊急生活支援事業 第8弾

令和4年5月 京友会緊急生活支援事業 第9弾

(新型コロナウイルス感染拡大に伴う学生支援の対応として)

同窓会 令和2(2020)年度決算報告

(令和2(2020)年6月1日～令和3(2021)年5月31日)

収入

| 科目 | 令和2年度予算案 | 決算 | 差引 |
|-------------------|---|-----------|--|
| 前年度繰越金 | 2,023,218 | 2,023,218 | 0 |
| 会費 | 2,000,000 | 1,757,000 | 243,000 |
| 寄附 | 0 | 0 | 0 |
| 懇親会会費 | 0 | 0 | 0 |
| 2020新入生歓迎会会費(協力金) | 100,000 | 38,000 | 62,000 |
| その他 雑費収入 | - | 272 | -272 |
| 利息 | 5 | 8 | -3 |
| 計 | 4,123,223 | 3,818,498 | 304,725 |
| 会費内訳 | (一般) ¥2500 × 413 口 (修士・博士) ¥2500 × 81 口 (学生) ¥4000 × 46.5 口 (入会金) ¥6000 × 56 口 | | 1,032,500 202,500 186,000 336,000 |

支出

| 新・科目 | 令和2年度予算案 | 決算 | 差引 |
|----------|-----------|-----------|----------|
| 事業費 | 325,000 | 98,320 | 226,680 |
| 幹事手当 | 960,000 | 927,000 | 33,000 |
| 賃借料 | 20,000 | 0 | 20,000 |
| 印刷費 | 670,000 | 974,317 | -304,317 |
| 郵送費/通信費 | 390,000 | 182,802 | 207,198 |
| 消耗品 | 5,000 | 983 | 4,017 |
| 旅費・交通費 | 36,000 | 36,000 | 0 |
| 会議費 | 10,000 | 0 | 10,000 |
| 委託費 | 20,000 | 20,000 | 0 |
| 講師謝金 | 0 | 0 | 0 |
| 慶弔/交際費 | 10,000 | 14,377 | -4,377 |
| 払込手数料 | 5,000 | 1,522 | 3,478 |
| 支払手数料 | 5,000 | 2,860 | 2,140 |
| 雑費 | 10,000 | 0 | 10,000 |
| 京友会生活支援金 | 200,000 | 200,000 | 0 |
| 次年度繰越金 | 1,457,223 | 1,360,317 | 96,906 |
| 計 | 4,123,223 | 3,818,498 | 304,725 |

70周年記念事業 令和2(2020)年度決算報告

(令和2(2020)年6月1日～令和3(2021)年5月31日)

収入

| 科目 | 令和2年度予算案 | 決算 | 差引 |
|-----------|-----------|-----------|---------|
| 前年度寄付金繰越金 | 7,404,228 | 7,404,228 | 0 |
| 寄付金 | 100,000 | 150,000 | -50,000 |
| 助成の返還金 | 0 | 8,893 | -8,893 |
| 利息 | 30 | 56 | -26 |
| 計 | 7,504,258 | 7,563,177 | -58,919 |

支出

| 科目 | 令和2年度予算案 | 決算 | 差引 |
|--------------|-----------|-----------|----------|
| 京友会研究助成事業 | 300,000 | 300,000 | 0 |
| 同窓会国際賞賞金 | 150,000 | 150,000 | 0 |
| 活動支援事業 | 100,000 | 0 | 100,000 |
| 在学生向けの寄贈品 | 50,000 | 0 | 50,000 |
| 審査委員会経費 | 5,000 | 0 | 5,000 |
| 消耗品費 | 2,000 | 998 | 1,002 |
| 郵送・通信費 | 50,000 | 5,270 | 44,730 |
| 事務補助謝金 | 0 | 0 | 0 |
| 支払手数料 | 10,000 | 2,220 | 7,780 |
| 払込手数料 | 0 | 203 | -203 |
| 70周年記念行事関連経費 | 0 | 0 | 0 |
| 京友会生活支援金 | 1,000,000 | 1,150,000 | -150,000 |
| 雑費 | 20,000 | 0 | 20,000 |
| 次年度繰越金 | 5,817,258 | 5,954,486 | -137,228 |
| 計 | 7,504,258 | 7,563,177 | -58,919 |

学生生活支援事業 令和2(2020)年度決算報告

(令和2(2020)年6月1日～令和3(2021)年5月31日)

収入

| 科目 | 令和2年度予算案 | 決算 | 差引 |
|-----------------|-----------|-----------|------------|
| 令和2年度一般会計より | 200,000 | 200,000 | 0 |
| 令和2年度70周年記念事業より | 1,000,000 | 1,150,000 | -150,000 |
| 寄付金(のべ179名) | 0 | 1,770,000 | -1,770,000 |
| 利息 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 1,200,000 | 3,120,000 | -1,920,000 |

支出

| 科目 | 令和2年度予算案 | 決算 | 差引 |
|--------|-----------|-----------|------------|
| 第2弾 | 600,000 | 540,000 | 60,000 |
| 第3弾 | 600,000 | 900,000 | -300,000 |
| 第4弾 | 0 | 350,000 | -350,000 |
| 第5弾 | 0 | 570,000 | -570,000 |
| 郵送・通信費 | 0 | 0 | 0 |
| 支払手数料 | 0 | 10,380 | -10,380 |
| 雑費 | 0 | 0 | 0 |
| 次年度繰越金 | 0 | 749,620 | -749,620 |
| 計 | 1,200,000 | 3,120,000 | -1,920,000 |

同窓会 令和3(2021)年度予算案

(令和3(2021)年6月1日～令和4(2022)年5月31日)

収入

| 科目 | 令和2年度予算案 | 令和3年度予算案 |
|-------------------|-----------|-----------|
| 前年度繰越金 | 2,023,218 | 1,360,317 |
| 会費 | 2,000,000 | 2,000,000 |
| 寄附 | 0 | 0 |
| 懇親会会費 | 0 | 0 |
| 2021新入生歓迎会会費(協力金) | - | 100,000 |
| 新入生歓迎会会費 | 100,000 | 100,000 |
| その他 雑費収入 | - | 0 |
| 利息 | 5 | 5 |
| 計 | 4,123,223 | 3,560,322 |

支出

| 新・科目 | 令和2年度予算案 | 令和3年度予算案 |
|---------------|-----------|-----------|
| 事業費 | 325,000 | 465,000 |
| 幹事手当 | 960,000 | 960,000 |
| 賃借料 | 20,000 | 33,000 |
| 印刷費 | 670,000 | 680,000 |
| 郵送費/通信費 | 390,000 | 100,000 |
| 消耗品 | 5,000 | 5,000 |
| 旅費・交通費 | 36,000 | 36,000 |
| 会議費 | 10,000 | 20,000 |
| 委託費 | 20,000 | 20,000 |
| 講師謝金 | 0 | 0 |
| 慶弔/交際費 | 10,000 | 15,000 |
| 払込手数料(口座徴収料金) | 5,000 | 5,000 |
| 支払手数料 | 5,000 | 5,000 |
| 雑費 | 10,000 | 10,000 |
| 京友会生活支援金 | 200,000 | 0 |
| 次年度繰越金 | 1,457,223 | 1,206,322 |
| 計 | 4,123,223 | 3,560,322 |

70周年記念事業 令和3(2021)年度予算案

(令和3(2021)年6月1日～令和4(2022)年5月31日)

収入

| 科目 | 令和2年度予算案 | 令和3年度予算案 |
|-----------|-----------|-----------|
| 前年度寄付金繰越金 | 7,404,228 | 5,954,486 |
| 寄付金 | 100,000 | 100,000 |
| 利息 | 30 | 50 |
| 計 | 7,504,258 | 6,054,536 |

支出

| 科目 | 令和2年度予算案 | 令和3年度予算案 |
|--------------|-----------|-----------|
| 京友会研究助成事業 | 300,000 | 300,000 |
| 同窓会国際賞賞金 | 150,000 | 100,000 |
| 活動支援事業 | 100,000 | 100,000 |
| 在学生向けの寄贈品 | 50,000 | 50,000 |
| 審査委員会経費 | 5,000 | 5,000 |
| 消耗品費 | 2,000 | 2,000 |
| 郵送・通信費 | 50,000 | 30,000 |
| 事務補助謝金 | 0 | 0 |
| 支払手数料 | 10,000 | 10,000 |
| 70周年記念行事関連経費 | 0 | 0 |
| 京友会生活支援金 | 1,000,000 | 500,000 |
| 雑費 | 20,000 | 20,000 |
| 次年度繰越金 | 5,817,258 | 4,937,536 |
| 計 | 7,504,258 | 6,054,536 |

学生生活支援事業 令和3(2021)年度予算案

(令和3(2021)年6月1日～令和4(2022)年5月31日)

収入

| 科目 | 令和2年度予算案 | 令和3年度予算案 |
|-------------|-----------|-----------|
| 前年度寄付金繰越金 | - | 749,620 |
| 予算より計上 | 1,200,000 | 500,000 |
| 寄附金 | 0 | 500,000 |
| 新入生歓迎交流会協力金 | 0 | 130,000 |
| 利息 | 0 | 0 |
| 計 | 1,200,000 | 1,879,620 |

支出

| 科目 | 令和2年度予算案 | 令和3年度予算案 |
|--------------|-----------|-----------|
| 第6弾 8月予定 | - | 500,000 |
| 第7弾 11月予定 | - | 470,000 |
| 第8弾 令和4年2月予定 | - | 450,000 |
| 第9弾 令和4年5月予定 | - | 450,000 |
| 郵送・通信費 | 0 | 0 |
| 支払手数料 | 0 | 9,620 |
| 雑費 | 0 | 0 |
| 次年度繰越金 | 0 | 0 |
| 計 | 1,200,000 | 1,879,620 |

役員会より

(2021年3月24日役員会)

- ・ 学生生活支援事業の報告と今後について。昨年度の第1弾から第4弾迄の支援について報告があり、ご寄附を頂いた方々へは5月の総会案内の発送の際にお礼状を同封する事が了承された。また第5弾以降の支援に関しても実施することが了承された。
- ・ 在学活動支援事業について。2020年度活動支援事業の報告があり、募集案を見直し今後のスケジュールや進め方について了承された。
- ・ 卒業生・修了生への記念品の贈呈について。今年度も卒業生・修了生歓送会が開催できなかったため、卒業証書授与式の際に記念品を贈呈したことが報告された。また、在学生向けの寄贈品については、要望がなかった為、今年も学生生活支援事業に補填する事が承認された。
- ・ 今年度の総会について日程・スケジュール等に関して了承された。また役員会も含めて全てオンラインでも参加できるようハイブリットでの開催を検討することとした。

(2021年7月4日役員会)

- ・ 令和2年度の事業報告、会計報告（総会で承認）。
- ・ 令和2年度国際賞受賞者の発表、令和2年度研究助成事業の報告、令和3年度研究助成事業対象者が報告された（総会で承認）。
- ・ 令和3年度事業計画・予算案、京友会学生生活支援事業の報告と継続、70周年事業寄附の報告と継続について報告された（総会で承認）。
- ・ 70周年記念事業の規約の改正について了承された（総会で承認）。
- ・ 寄贈図書について。40周年記念事業に際して募集した際などに集まった寄贈図書を、今回、全て京都大学文書館へ寄贈することが了承された（総会で承認）。京都大学文書館に寄贈することにより、京都大学のデータベースに図書・資料が登録され、研究・教育の資料としてより有効に活用されるようになる。また、京友会のホームページにおいて京都大学文書館に寄贈した図書の一覧を公開し、会員の皆様にも広く資料についてお知らせすることも了承された。

令和3年度役員名簿（2021年度）

| 役職 | 氏名 |
|------|---------|
| 会長 | 山崎 高 哉 |
| 副会長 | 楠 見 孝 |
| | 津 田 仁 |
| 委員 | 南 部 啓 子 |
| | 鷹 野 克 己 |
| | 小 林 哲 郎 |
| | 有 田 禎 宏 |
| | 柰 野 雄 一 |
| | 福 西 清 次 |
| | 服 部 憲 児 |
| | 瀧 端 真理子 |
| | 高 嶋 浩 子 |
| | 石 井 英 真 |
| 会計監査 | 高 根 雅 啓 |
| 会計監査 | 松 下 姫 歌 |
| 筆頭幹事 | 久 富 望 |
| 幹 事 | 松 本 いづみ |

(役員は会計監査以外卒業年度順)

令和2年度 京友会国際賞の選考結果

本年度は、二本の論文をいずれも受賞に値する素晴らしい論文であると判断し、受賞対象とした。

MARCELO 氏の論文は、日本でこれまで注目されてこなかったイスマノアメリカ系移民を対象とし、「社交」という概念をキーワードに、関西地方に居住するイスマノアメリカ人移民者のアイデンティティ構築やコミュニティ形成のプロセスを丹念に分析優れた論文である。質的調査に比重をおきつつも、量的データも十分に検討した緻密な分析により、移民の多様な経験に焦点をあてて、移民の具体的で多様な生き方を抽出しており、グローバル化する現代社会において非常に意義があるきわめて興味深い内容である。

倪氏の論文は、理論的にはその存在が想定されつつも、これまでほとんど検討されてこなかった、ワーキングメモリ・トレーニングの「負の効果」の存在を検証した優れた論文である。これまで研究者を含む多くの者がトレーニングに害は無いと考えてきたが、それが楽観的すぎると警鐘をならすとともに、認知能力の可塑性に関する研究に理論的に貢献している。これまで世界中で開発されてきた研究用、商業用の認知能力に対するトレーニングの考え方を根本から変える可能性のあるたいへん優れた研究であると評価できる。

今後も二人の研究生活が充実し、世界に向けて発信・発展されることを期待したい。

2021年6月4日 審査委員 南部啓子・服部憲児

| 氏名 | 学年 | 論文題目 |
|--|----|--|
| ピフオー ガルベス マルセロ アレハンドロ PIFFAUT GALVEZ MARCELO ALEJANDRO (チリ) | M2 | 移民者同士のアイデンティティ構築過程における「社交」：関西地方に居住するイスマノアメリカ人の事例に着目して |
| に 楠 (Ni, Nan) (中国) | D1 | Potential negative effects of working memory training (ワーキングメモリ・トレーニングの潜在的な負の効果) |

令和2年度 研究助成事業報告

助成期間 令和2年7月6日～令和3年3月31日

| 助成者 | 学年 | 講座 | 指導教員名 | 研究課題 |
|-------------------------|----|-----------|-------|--|
| おう れいび 王 令薇 | D1 | 教育社会学講座 | 佐藤 卓己 | 学校教育改革をめぐる公共的議論への大衆参加のメディア史—安定成長期に着目して— |
| かまだ よしき 鎌田 祥輝 | D1 | 教育・人間科学講座 | 西岡加名恵 | 英国における市民のための科学教育の成立と展開——1970年代のゼネラルサイエンスの位置づけに着目して |
| かん なん 康 楠 (Kang Nan) | D1 | 教育認知心理学講座 | 齊藤 智 | 日本語単語の音韻処理における意味記憶の関与—日本語を第二言語とする中国人学習者を対象に— |
| みた けいこ 三田 桂子 | D1 | 連携教育学講座 | 松下 姫歌 | 砂漠の国の説話に描かれるパトスと物語構造に関する心理臨床的研究 |
| しのはら ふみお 篠原 史生 | M2 | 教育・人間科学講座 | 田中 智子 | 戦前期救護法下における京都の精神病患者処遇 |
| しいな けん 椎名 健人 | D2 | 教育社会学講座 | 竹内 里欧 | 上田敏とその時代—師弟関係と文学史的評価— |
| たおか だいき 田岡 大樹 | D1 | 教育認知心理学講座 | 楠見 孝 | 無謀な賭けの心理的メカニズムの解明—認知モデルの構築と個人特性との関連性の検討— |
| とどりき かほ 等々力花歩 | M2 | 教育・人間科学講座 | 明和 政子 | 他者との行動同期が乳幼児の援助行動に与える影響—発達科学のアプローチによる検証— |
| さわだ かずき 澤田 和輝 | M2 | 教育認知心理学講座 | 野村 理朗 | Awe and Identity |
| ふじむら たつや 藤村 達也 | D1 | 教育社会学講座 | 稲垣 恭子 | 戦後日本における受験文化の教育社会学的研究 |

■王 令薇

本研究は、NHK 社会教育番組『中学生日記』を対象とし、青少年問題言説における同番組の位置づけおよび、それが教育議論において果たした役割について検討するものです。マス・メディアが提示した教育問題・青少年問題への認識枠組みの変容を検討する先行研究は既に存在するが、学校関係者により高い評価を得られた『中学生日記』が提示した教育問題は、この文脈と完全に一致しているわけではないです。『中学生日記』の分析は、1970年代以降の教育問題をめぐる言説の布置と、一般大衆が教育議論に参加するマイクロプロセスとの解明に貢献できると思った次第です。

1970～1980年代の『中学生日記』に関しては、以下のことが分かりました。

1980年代半ばまでの『中学生日記』は、「中学生問題」を教育体制や性別役割分業といった社会構造に結びつけながら、教師の情熱のみで解決できない問題として解釈しました。受験競争といった問題を社会にアピールし、その後の教育改革をめぐる議論の土台を作る役割を果たしていました。1980年代半ば以降の番組の中で、教師や親の行動及び生き方は、中学生に影響を与えうるものと見なされるようになりました。さらに言えば、制作者側と視聴者側の関心も、教育体制の問題から、青少年教育の責任が学校にあるか家庭にあるかに移り、臨時教育審議会が提起した教育改革の主張には、疑問がほとんど示されなかったのです。

上述の研究成果は、日本マス・コミュニケーション学会で口頭報告を行いました。その一部は論文「教育議論におけるNHK『中学生日記』の役割」として『京都大学大学院教育学研究科紀要』第67号に掲載されることが決定されました。また、青少年問題言説における番組の位置づけを検討した論文などの投稿も順調に進んでいます。

いただいた助成金は、主に資料収集ための旅費、関連文献の購入とILLサービスの利用に充てさせていただきました。本研究によって得られた成果を、2022年度提出予定の博士論文に発展させていこうと考えております。貴重な研究助成をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

■鎌田 祥輝

私は将来の市民を育成することを目的とした科学教育のあり方について探究しています。現在は英国

の中等教育段階における科学教育史について、STS（科学・技術・社会）教育の系譜に着目して、その思想と教材の研究を進めています。京友会研究助成に採択いただいた本研究では、1960年代～70年代にかけて行われていた科学教育カリキュラム開発プロジェクトの成果物のうち、STS教育の萌芽として知られる、幅広い学力層の生徒を対象とした科目「ナフィールド中等科学」に着目しました。

ナフィールド中等科学は、これまで科学を履修しない、もしくは一部科目のみを履修していたような学力層の生徒たちに、統合的な科学教育を提供するものでした。プロジェクトで開発されたのは生徒用のテキストではなく、「エネルギーの活用」、「生物の相互依存」などのテーマに分かれた教師用の教材集でした。決まったカリキュラムが存在しないため、各学校の教師はこれを参考に、科学の系統性ではなく生徒のニーズや興味、さらには将来生徒が会う社会問題などを意識してカリキュラムを作成する必要がありました。そのためナフィールド中等科学は「何を教えるか」、「どのように教えるか」という問いだけでなく、「なぜこれを教えているのか」を教師に問うものでした。ナフィールド中等教育は、将来科学を専門としないような生徒達に、なぜ科学を教える必要があるのかを教師が考察してカリキュラムを組み立てる契機となったという意義を有していたことを、研究の中で明らかにしました。

研究成果の一部は、『京都大学大学院教育学研究科紀要』（第67号、2021年）に掲載されました。本成果は現在進行中の研究とも密接に関わるものであり、引き続き研究に取り組み、来年度にその成果を発表する予定です。いただいた助成金は、関連資料の収集に充てさせていただきました。貴重なご支援をいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。

■康 楠

日本語漢字単語を正しく読むためには、漢字の形態、意味、そして音韻という三つの要素を統合的に処理しなければならない。意味的表象を司る意味記憶は、言語処理のための高次認知機能の中心にあり、音韻的システムまたは視覚的・書記システム（文字の形態処理）に制約を与えつつそれらをサポートしていると考えられている(Ueno et al., 2014)。例えば、読み方が典型的であり日常生活において出現頻度の高い単語「戦争」は、非典型的で頻度の低い単語「頭取」に比べ、読みの正確率がより高く、反応時間もより速い。それは、「頭取」は普段によく使う言葉

ではなく、その構成漢字も複数の読み方の可能性を持っているためである。「頭取」のような単語を正しく読むにはまず意味を頭に浮かべ、それによって正しい読み方を構成漢字に割り当てなければならない。つまり、このような単語の音韻処理には意味記憶がより強く関与していると考えられる (Fushimi et al., 1999)。本研究は、日本語漢字単語の読み方の典型性および出現頻度という二つの特徴を取り上げ、この傾向が中国人第二言語学習者にもみられるのかを調べた。また、音韻処理への意味記憶の関与が学習者の習熟度と母語背景という特徴に影響されるかどうかを検討した。この検討によって、第二言語としての日本語の学習者が漢字の音韻処理において経験する困難さ、またその背後となる原因を理解するための示唆を提供できると考える。

本研究には中国人上級学習者 28 名、中級学習者 39 名 (オンライン実験; 本助成金より参加者を募集した) に実験に参加してもらい、習熟度の影響を調べた。その結果、学習者は日本語母語話者を対象とする先行研究と同様に、典型性、または出現頻度の低い漢字単語において意味記憶に強く制約されることがわかった。とりわけ中級学習者においてこの傾向は顕著であり、意味認知症に罹患した日本語母語話者に類似しているパターンの結果が得られた。そして、母語背景の影響を調べるため、母語には漢字システムのない非漢字圏学習者を対象に予備調査を行い (本助成金より参加者を募集した)、現段階では調査を継続している。

貴助成金の支援を受けたことにより、以上のように本研究を順調に進めることができた。心より感謝申し上げます。

■三田 桂子

令和 2 年度京友会のご助成を頂きまして、誠にありがとうございました。

今回の研究は、国内の心理療法における「砂漠イメージ」の心理的意味の調査と砂漠の国の神話と説話の文献調査と分析を行いました。まず『箱庭療法学研究』第 1 巻～ 32 巻の中から「砂漠イメージ」が表出された 54 編の事例論文を選出し、クライアントの年齢・診断・見立てごとに分類して「砂漠イメージ」の内容を分析したところ、箱庭の砂を目前にした時、大地に繋がるような安心感を抱く場合と、脆く崩壊する砂の物質性に晒されるように感じる場合では存在基盤が大きく異なり、心理療法のプロセスに特徴的な違いが明示されました。児童期では、

砂漠が物語の舞台となって多様な人物や動植物などが登場し、動きある展開が見られることが特徴的でした。この研究結果は、事例内容を具体的に示している性質上、臨床家に限定されて閲覧される『箱庭療法学研究』に投稿しています。また、砂漠の国・古代メソポタミアの神話「ギルガメッシュ叙事詩」「イシュタルの冥界下り」や紀元後のアラブ諸国の説話「千一夜物語」の物語分析は、引き続き継続して取り組んでいます。これらの神話や説話には圧倒的な自然の威力に対する人々の心情、神と人との関係、複雑な人間関係のもつれ等が描かれています。心理療法のプロセスの中で、厳しい内的な作業に向き合う上で、重要なエッセンスや指針が秘められていると考えられます。今後、この物語分析の結果も論文としてまとめ、上述の研究結果と比較検討して「砂漠イメージ」の意味の考察をさらに深めて公表して参ります。

この度の助成金は文献の購入費や資料印刷費の一部として活用しました。ご助成を頂くことで、モチベーションを保って研究に専念することが叶いました。心より深く御礼申し上げます。

■篠原 史生

今回助成を頂いて私が取り組んだ研究は、戦前期日本における救貧法である救護法のもとでの精神障害者処遇の特質を、主に 1930 年代の京都市を中心として検討し、明らかにしようとするものです。救護法とは、現在の生活保護法の前身にあたる一般救貧法であり、これまでの精神障害者処遇をめぐる研究ではほとんど論じられてきませんでした。本研究では、同法の運用に不可欠な存在であった京都市部方面委員 (地域住民から選ばれた無給の名誉職で、地域の貧困世帯に直接訪問して救貧活動を実践した人びと) の動向に特に着目しました。検討に当たっては、当時の京都市部方面委員による会議記録や機関誌の記事、新聞記事や雑誌記事、統計資料や行政文書などの史料を収集し、それらの分析を行いました。その結果、方面委員は、貧困世帯への救護活動を通して、貧困世帯における精神障害者の存在を「家庭に貧困を齎す存在」として見出し、社会問題化していったことが明らかになりました。また、方面委員は、家庭を貧困から救済するために貧困精神障害者を施設へ収容すべきであると訴え、市長へ建議を行っていたことも明らかになりました。1930 年代の京都市では、救護法のもとで生活に困難を抱える人の相談を受け援助を与える役割を担った方面委員

によって、貧困精神障害者の施設収容が推進されていたのでした。本研究では、従来の研究では未解明だった救護法による精神病者処遇の実態を方面委員の議論と動向を通して示すことができたと考えています。以上の本研究の成果は、修士論文としてまとめました。また、今後は学術雑誌への論文投稿を検討しております。

頂いた助成金につきましては、本研究に関連する文献購入と史料の複写代金に充てさせていただきました。当初は、東京や金沢への史料調査のための交通費や宿泊費に使用させて頂く予定でしたが、コロナ禍での制約により修士論文執筆後の期間も含め、助成期間中にそれらの地域での史料調査実施が叶わず、やむを得ず用途を変更させていただきました。貴重なご支援をいただき、誠にありがとうございました。

■椎名 健人

令和2年度京友会助成金をいただきまして誠にありがとうございました。私は教育社会学講座に所属し、主に日本における文学者／芸術家間のネットワークについて、学校教育の内あるいは外において構築される師弟関係という切り口から主に研究しております。とりわけ今回助成をいただいた研究では、明治・大正時代の文学者である上田敏を中心とした文学者同士の師弟関係の性質について、同時代の文学者である夏目漱石が構築した師弟関係との差異に着目しながら考察することを目的とし、関連文献及び資料を購読して分析を進めました。

上記の研究成果については昨年10月に行われた第93回日本社会学会大会における研究報告「漱石と上田敏とその時代——師弟関係と文学的評価」にまとめました（新型コロナウイルス感染症の影響により、当日対面開催中止。学会規定により報告済扱い）。検討を進める中で、大学機関に勤務する教員／教育者と詩人／小説家という二つの立場をしばしば行き来する明治・大正の文学者が構築する人間関係のあり方は、現代における学校教育あるいは芸術業のあり方やその内部における師弟関係といかなる共通点や関わりがあるのかという問いもまた、本研究を進める上で重要であるという考えに至りました。こちらはまだ具体的な成果として形にする段階までは至っていませんが、現代の教育観や学歴観、芸術業従事者の職業観についての関連資料を購読するなどして検討を進めました。これまでの成果を踏まえて令和3年度以降も引き続き研究を進めていく所存

です。

本助成の申請時には、助成金の用途として書籍・資料の購入のほか、資料収集のための旅費に使用することを想定していました。しかし新型コロナウイルス感染症の影響が予想以上に長引いたため、遠方への移動を自粛し、結果としていただいた助成金は主に書籍・資料類の購入に使用いたしました。

■田岡 大樹

この度は京友会助成金を頂き誠にありがとうございました。助成金は、オンライン実験の参加者（40名）に対する謝礼として使用させていただきました。おかげさまで、大変貴重なデータが得られただけでなく、オンライン実験や認知モデリングといった新たな研究手法にも挑戦することができました。その研究成果をここにご報告させていただきます。

ギャンブルにおいて、人は時に勝ちが見込めないにもかかわらず賭けを行ってしまいます（無謀な賭け）。先行研究では、事前に多くの勝ちを経験していたり、ポジティブ感情が喚起されていたりすると、無謀な賭けが行われるということが報告されてきました。しかし、その具体的なメカニズムや、無謀な賭けを抑制するような個人特性については検討されていませんでした。そこで、令和2年度は、(1) 無謀な賭けの背後にある認知プロセスをモデリングという分析手法によって明らかにする、(2) 無謀な賭けと関連する個人特性を検討するという2つの目的のもと研究を行いました。

その結果、目的(2)に関して、個人の合理的な情報処理スタイル（論理に基づく判断や分析的・意識的な思考を行う能力や態度）によって、勝ち経験やポジティブ感情が賭けの無謀さに及ぼす影響が弱められるという可能性が示されました。つまり、合理的な思考を行う能力が高い人や合理的な思考を好む人は、たとえ多くの勝ちを経験したり、ポジティブ感情を喚起されたりしても無謀な賭けを行わず、手堅い賭けを行っていました。これは、人々の合理的な思考を行う能力や態度を伸ばすことで無謀な賭けを抑制できるということを示唆しており、ギャンブル依存症予防に役立つ知見が得られたと考えています。本成果は、令和3年度に追試を行ったのち、学会誌に投稿する予定です。また、目的(1)に関しては、十分な有効データが得られず、目的の達成には至りませんでした。今回の経験を活かして令和3年度も研究を継続する予定です。

これからも無謀な賭けの心理的メカニズムの解明

とギャンブル依存症予防への応用を目指して、研究に邁進いたします。

■等々力 花歩

令和2年度に京友会助成金をいただく幸運に恵まれました。この支援を受けて、昨年度中に以下の研究を行うことができました。

ヒトは、生後14か月頃から、他者が誤って落とした物体を拾って渡す行動（以下、援助行動）を示すようになります。先行研究では、他者と動きを同時に行う（同期する）身体経験が、この時期の援助行動を促進することが示唆されています。本研究では、他者と動きを同期する身体経験が乳幼児の援助行動に影響するかどうかを実証的に検討するとともに、そこでみられる個人差についても着目しました。具体的には、生後14～16か月の乳児を対象に、他者と行為を同期する経験の有無が、援助行動が表出するまでの時間や頻度にどのような影響として現れるかを検討しました。また、親を対象として乳児の気質に関する質問紙調査も行いました。その結果、次の2点が明らかになりました。

- ①ただちに表出した（実験者がある行為の目的達成に失敗した後10秒未満に生じた）援助行動は、身体の動きを同期させた後には増加するが、非同期であった場合には減少する
- ②身体の動きを同期—非同期させる身体経験が援助行動に与える影響は、乳児の気質により異なる

本研究の結果は、他者と行為を同期する経験が乳幼児の社会的認知発達に与える影響、およびその個人差についての新たな知見をもたらしました。これらの成果は、2021年4月に開催される国際学会 Society for Research in Child Development にて発表する予定です。また、国際学術誌への投稿を目指して執筆を進めております。

頂いた助成金は、実験のための機材購入に充てさせていただきました。ご支援いただきましたこと、重ねて感謝申し上げます。助成期間終了後も、さらに浮かび上がってきた研究課題に取り組み、成果を学術および社会に広く発表していく努力を重ねます。この度は、誠にありがとうございました。

■澤田 和輝

この度は、京友会研究助成事業に採択くださり、誠にありがとうございました。

私は、畏敬の念（Awe）の研究をしています。

大自然の絶景、偉大な人物、崇高な芸術品に対して「畏敬の念」という表現を用いたり、あるいは用いられた文章を目にしたという経験があるのではないのでしょうか。心理学分野において、畏敬の念は「既存の認知的枠組みを超越するような広大な刺激に対して生じる感情反応」と定義され、近年国内外で注目を集める重要なテーマの一つです。

本助成では、畏敬の念が個人のアイデンティティ探求に及ぼす影響に関わる研究の手始めとして、畏敬の念と人生の意味との関連についてオンライン調査を行いました。参加者（N = 125）は、7つのポジティブ感情（畏敬の念・喜び・楽しさ・自尊心・満足感・慈悲・愛情）を日常生活で経験する頻度に関する質問38項目（e.g., “私はよく畏敬の念を感じる”）、人生の意味を探求している程度に関する質問5項目（e.g., “私はいつも人生の意味を見つけたいと思っている”）、自分の人生に意味があると思う程度に関する質問5項目（e.g., “私は自分の人生の意味を理解している”）に回答することが求められました。媒介分析という手法を用いて変数間の関連を検討した結果、日常生活において畏敬の念を感じている個人ほど、人生の意味を探求しており、人生の意味が存在していると感じていることが明らかになりました。また、この関係性は、畏敬の念以外のポジティブ感情の効果を統制した場合でも確認されました。

今後の研究では、動画像を用いて畏敬を喚起する実験室実験や実際に畏敬を喚起するような場所に赴き実施するフィールド実験にて、因果関係についての検討をしていく予定です。

いただいた助成金は、実験参加者への謝礼として、調査費用にあてさせていただきました。本研究により得られた結果は、国内外の学会発表にて報告する予定です。貴重な助成金をいただきましたこと、改めて心よりお礼申し上げます。

■藤村 達也

この度は研究にご援助いただき、誠にありがとうございました。私は教育社会学を専攻し、戦後日本の受験現象の歴史社会学的研究を行っています。その中で、現在はとくに医学部受験に関する研究を進めています。この30年ほどで医学部受験は競争が激化し、入試倍率と偏差値が大きく上昇しました。かつては偏差値が50を下回る私立医学部も存在しましたが、現在は全私立大学が偏差値65以上と、早稲田大学や慶應義塾大学に匹敵する難関になって

います。倍率に関しても非常に高く、後期試験では1000倍以上に至ることもあります。また他学部と異なり、2年以上の浪人生活を送る受験生が多く、ときには10年に達することもあります。また医学部受験専門の予備校が近年数多く開業しているなど、一般的な受験とは異なる様相を呈しています。

また、医学部受験の競争の激しさ以外の大きな特徴として、家族・親族の影響で医学部を志望する者が非常に多いことがあげられます。親の姿を見て憧れを抱くという場合もありますが、他に希望していた学部があったにもかかわらず親からのプレッシャーで受験せざるを得なくなったという場合があります。現代の受験における非常に特異な現象ともいえる医学部受験の特徴とメカニズムを明らかにするため、ペアレントクラシー（親の財産と願望が子

の教育機会や地位達成を左右する社会構造）の観点から分析を進めています。また、これまで教育社会学・社会学では階層再生産に関する研究が数多く行われてきましたが、その中でも直接的な世襲に関するものは多くありません。また世襲の中でも、教育系统内での激しい選抜を経ないと成功しないという点で、医師の世界は独自の構造を持っているといえます。こうした構造を社会学的な視点から明らかにし、受験システム全体の中での検討を行ってみたいと考えています。

今年度は医学部予備校で講師をしながら受験生へのインタビューを行い、その文字起こし業務の依頼に助成金を使用いたしました。ご支援に感謝いたします。

令和3年度 研究助成審査会選考結果

助成期間 令和3年7月6日～令和4年3月31日

京友会令和3年度研究助成事業について、鳶野克己委員と石井英真委員により審査が行われた。応募は9件あり、申請書にもとづいての審査を行い、研究目的・研究計画・助成金の用途・研究業績書・指導教員の推薦書の記載にもとづき、研究内容の説明の明瞭性や研究計画・助成金の用途の妥当性などを協議した。

その結果、研究的な価値が認められ一定の水準に達していると判断された8件について採択し、1. 研究計画に示される研究方法についての明瞭性、2. 申請された助成金の用途の研究計画に対する妥当性、3. 募集要項に対する申請内容の妥当性、などを考慮し、予算上の上限額の範囲内で配分の判断を行った。

2021年6月3日 審査委員 鳶野克己・石井英真

| 助成者 | 学年 | 講座 | 指導教員名 | 研究課題 |
|----------------|----|----------------|-------|---|
| に 宛 楠 | D1 | 教育認知心理学講座 | 齊藤 智 | ワーキングメモリ・トレーニングによる「負の効果」の検討 |
| にしわき 西脇 彩央 | M2 | 教育・人間科学講座 | 田中智子 | 在外公館と留学生—明治期米国の場合— |
| おん 温 秋穎 | D1 | 教育社会学講座 | 佐藤卓己 | 近代日本対中情報活動における中国語の運用—外務省官僚・岩村成允の中国語実践を例として |
| にしおか 西岡 真由美 | D3 | 教育学環専攻臨床心理学コース | 岡野憲一郎 | 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大が糖尿病患者の心理面に及ぼす影響—周囲の人々との関係性に着目して— |
| ひつわり 櫃割 仁平 | D1 | 教育認知心理学講座 | 野村 理朗 | 俳句鑑賞中の感情の揺らぎが審美性評価に与える影響 |
| わたなべ 渡部 晃大 | M2 | 教育社会学講座 | 竹内 里欧 | シングルマザーの「再婚」への意識に関する社会学的研究 |
| いまむら 今村 光一郎 | M2 | 教育社会学講座 | 竹内 里欧 | 学習の場としての男性運動 |
| ぞん 孫 詩榕 | D2 | 教育認知心理学講座 | 楠見 孝 | The Effect of Trait Schadenfreude on Episodic Schadenfreude Based on Narcissism（自己愛人格に基づくエピソードのシャーデンフロイデに及ぼす特性シャーデンフロイデの影響） |

令和3年度研究助成事業助成対象者コメント — 助成を受けて —

■ 倪 楠

このたびは、令和3年度京友会研究助成事業に採択いただき、誠にありがとうございます。私はワーキングメモリを含む認知機能のトレーニングを中心に実証研究を行っています。

私たちを取り囲む生物・社会環境に柔軟に適応するためには、様々な認知機能が必要となります。そのため、認知機能を高めることで環境に対する適応を高める試みが長年に亘って続けられてきました。その中で、最も基礎理論が頑健で、実証的検証が豊富な分野は、ワーキングメモリのトレーニングです。

ワーキングメモリ（作動記憶または作業記憶と記されることもある）とは、容量に制限を持ちながら、情報の一時的な保持と認知操作を行う動的なシステムであり、知能や問題解決などの高次認知と強く関係しています。したがって、ワーキングメモリをトレーニングすることで認知機能が強化されるという期待が高まっています。しかし、これまで20年間の研究のメタ分析では、ワーキングメモリ・トレーニングの効果が極めて限定的で、ワーキングメモリ以外の課題成績（高次認知課題や知能検査など）の向上がほぼ見られていません。

更に、新しい理論からは、トレーニングによって、後に行う別の課題の成績が低下するという「負の効果」も予測されます。そこで私はこれからの研究では、このトレーニングの「負の効果」に焦点を当てて検証を行い、トレーニングによる認知機能の変化のメカニズムを解明したいと考えています。

貴重なご支援をいただいたことに改めて深くお礼申し上げます。いただいた助成金は、実験・調査の費用に活用させていただきます。本研究によって得られた結果は、学会発表や論文執筆により報告いたします。

■ 西脇 彩央

この度は、京友会研究助成事業にご採択いただき、誠にありがとうございます。私は明治期の日本人米国留学生について研究しています。当時の留学生に関する研究は様々ありますが、私は、在米公館（公使館や領事館等）と留学生との関係に、特に注目し

て研究したいと考えています。

明治期の米国留学生は、日本の近代化を進める上で重要な推進力であり、政府も留学政策・制度を整えていきます。しかし実際には、政府の政策や思惑と、留学の実態に齟齬が生じる場合があります。そんな、政府の管理が行き届かない現場の留学生に対応したのが、公使や領事をはじめとする在米公館の外交官たちです。

現代と比べ、明治期の米国留学は、不明点や不安定要素が遙かに多くあります。日本からの送金は不安定であり、そもそも、どのような学校があるのかさえわからない状態で渡米する者もありました。そのような留学生に対し、在米外交官は金銭支援を行ったり、修学に関する指示を与えたりしました。制度上は、明治期の留学生管理は基本的に文部省が担い手であり、外務省や外交官の職掌ではありません。しかし、当時の留学生にとって、現地で頼れる在米公館の存在は大きかったはずで、留学生と外交官はどのような関係を築いていたのか、その関係はどのような意味を持つのか、検討していきます。

いただいた助成金は、史料調査の費用に用いさせていただきます。貴重なご支援に改めてお礼申し上げますとともに、これを励みに研究に邁進する所存です。

■ 温 秋穎

この度は、京友会研究助成事業に採択いただき、誠にありがとうございます。

私は、近代日本の情報空間における中国語という言葉の受容、および中国語の情報空間の変容に関心を持っており、「中国通」の外務省官僚・岩村成允を中心として研究を進めています。

中国語が運用される情報空間は、幕末には唐通事を継承する通訳型情報収集者により構築されていましたが、明治時代に入ると、各省庁に情報活動を従事する専門職が設置されていきました。そのなかで、政治的な発言を残していないとみなされがちな言語専門の外交官たちでも、基礎的な情報収集・翻訳の作業だけでなく、実は実際の外交交渉や対外宣伝・説得においても必要不可欠な存在なのですが、いままで、彼らを糸口とした近代日本の情報活動と言語

使用の関係については十分に研究されておられません。

「中国通」の外務省官僚の岩村成允は、明治時代から30年以上わたって外務省に勤め、領事・通訳官として日中交渉の最前線で活動してきた人物です。外務省の情報活動において彼の中国語実践がいかに行われ、その活動がいかなる理念に基づき、また日中関係にどのような影響を与えたか、以上が本研究の注目点になります。岩村の言語観と対中認識の形成を追究するために、まず、中国語で書かれた情報がインテリジェンス空間で伝達される通路（翻訳・通訳・メディア）への着目から始めます。

いただきました助成金は、資料収集のための費用にあてる予定です。本研究で得られた結果は、学会発表及び論文執筆の形で発表いたします。温かいご支援をいただきましたことに改めて感謝申し上げるとともに、有効に活用できるよう研究に邁進する所存です。

■西岡 真由美

この度は、令和3年度京友会研究助成事業に採択していただき、誠にありがとうございます。

私ども糖尿病心理臨床研究会は、糖尿病を抱える人々（以下、糖尿病患者）がどのような思いで病とともに生きておられるのか、ということ、調査やインタビュー、描画を描いていただくことを通して探索してきました。糖尿病は、病気が進行するまで自覚症状がないにも関わらず、食事や運動をはじめとした療養上の努力を求められる病気です。病に起因する心理的苦悩の存在も様々報告されています。

2019年12月から世界を覆っている新型コロナウイルス感染症ですが、糖尿病患者は感染すると重症化すると言われており、糖尿病患者やその周囲の人々の不安や緊張はそうではない人々に比して高いことが推測されます。また、感染を避けるためにソーシャル・ディスタンスを保つことが推奨されており、平時に比べて他者との接触が少なくなったり、逆に家族と一緒にいる時間が増えたりと、糖尿病患者を取り巻く人との関係性にも変化が生じたと思われます。糖尿病を抱えて生きる中で、他者との関係性の変化がどのように体験されたのか、また、療養にどのように影響があったのか、調査を通じて明らかにしていきたいと思っています。

いただいた助成金は、調査協力者への謝金、通信費、関連資料の購入等に充てさせていただく予定です。本研究の成果が、糖尿病患者の理解を深め、医療

との橋渡しとなり、「いのち」の現場に貢献できるものとなるよう、研鑽して参りたいと思います。

■櫃割 仁平

この度は京友会の研究助成事業に採択頂きまして、誠にありがとうございます。私は、世界最短の詩と言われる俳句を題材にしながら、人が芸術に対してどのように美しさを感じ、評価するかを研究しております。専攻は認知心理学という学問になり、俳句鑑賞中のメンタルイメージや感情に注目した研究になります。修士課程の際に行った研究では、メンタルイメージの鮮明度が俳句の評価に繋がったり、ポジティブ感情が俳句の美的な魅力を高めたりすることを発見しました。しかしながら、芸術体験の面白いところは、ネガティブな感情であったとしても美しさに繋がるところです。悲しい音楽を好んで聴いたり、怖いと分かっているのにホラー映画を楽しんだりするのを想像してもらおうと分かりやすいかもしれません。故に本研究では、そういったネガティブ感情やネガティブとポジティブが混ざり合った感情が俳句の美的評価に与える影響を検討したいと考えております。具体的には、実験参加者の方には、俳句が表示されたパソコン画面の前で、ジョイスティックを操作してもらい、ご自身の感情状態を鑑賞と同時に報告してもらおうということを行います。そんな感情状態の揺らぎともいえる、変化過程に美しさの源泉を見出したいと考えております。俳句は、17文字というとても小さな世界で美を生み出すとても興味深い題材です。小さい世界故に、生み出す感情は時に曖昧となりますが、それが本研究の目的に最適だと考えています。

■渡部 晃大

この度は、助成に採択していただき、まことにありがとうございます。助成に採択していただけることによって、自分の研究テーマに自信をもつことができ、今後の研究の励みとなります。

これから研究していきたいことは、「シングルマザーの『再婚』への意識」についてです。結婚の理由として、「お金のため」などといったことがよく言われます。それが、経済的な困窮の問題を抱えているとしばしば語られるシングルマザーの方であれば、経済的な面を意識していると想定するのは容易です。

しかし、「再婚」に向けた意識をそのような経済

的な側面のみで片づけてしまってよいのか、というのが私の問題意識です。私が所属している研究室は教育社会学を専門としているところですが、ともすれば、「当たり前」「そういうもの」という言葉で片づけられてしまいそうな現象を丁寧に切り崩すことができることが社会学の魅力の1つであると考えています。社会学的な概念も用いながら、「再婚」の背景にあるものを言語化することができればと思っています。

調査として、インタビュー調査を中心に行っていると考えています。実際に、再婚を経験した女性の方にインタビュー調査を行うことで、私がこれまで勉強してきた「ステップファミリー」の研究とも、接続させたいと考えております。

研究は暴力的なものです。しかし、この度助成をいただくことで、心の余裕を持って研究に取り組むことができればと思います。

■今村 光一郎

教育社会学研究室に所属する修士課程2年の今村と申します。この度、貴重な助成金を使わせていただける事になり、感謝申し上げます。教育学部同窓会（京友会）の支援を受けて研究ができることに、身の引き締まる思いでいっぱいです。

私は、反暴力・ジェンダー平等の理念をもつ現代日本の男性運動をフィールドに、男性たちの社会運動内部に見受けられる学習の動機と、中年期以降の男性性の捉え直しの過程を研究しています。学部生時代に抱いた、「中年は教育・学習の主体とみなされにくいのではないか」という問いに運動の意義・意味を解釈する研究の潮流である「新しい社会運動論」の立場から、これまで社会運動や社会変革の担い手としてあまり想定されてこなかった中年男性にとって、あえて男性の立場を明確に自認して暴力・ジェンダーの問題に取り組む意義・意味はどのようなものか、研究してまいります。具体的な研究手法は、令和2年度以来続けているフィールドワークと、フィールド内の男性たちに行うオンラインのインタビュー調査が中心です。既存の中年男性イメージに揺らぎをもたらすような新しい知見をもたらします。

助成金の用途としては、フィールドワークに赴く際の交通費、インタビューへの謝礼、および社会運動研究の書籍の購入費に充てる予定です。助成いただいた諸先輩方の期待に応えられるよう、全力を尽くして研究に邁進いたします。

■孫 詩榕

このたびは、今年度の京友会研究助成事業に採択いただき、誠にありがとうございます。

私の研究焦点はシャーデンフロイデと関係性攻撃傾向です。我々は、他者の不幸を知った時に、喜んでしまうことがたまにあります。日本における“他人の不幸は蜜の味”という経験は、欧米では“シャーデンフロイデ”（Schadenfreude）と呼ばれています。その一方で、反社会的なパーソナリティ特性（Dark Traid）の結果と考えられる関係性攻撃は、シャーデンフロイデという感情の促進因子でもあると報告されています。しかし、シャーデンフロイデを感じる傾向もまた関係性攻撃傾向を促進していると考えられます。人が日常の中で不公平を認識したり、望ましくない結果を経験したりすることから、怒りや恨みが生じ、それらが間接的に他人を傷つける引き金になるかもしれません。こうした行動の背後にある心理的なメカニズムを解明し、その抑制方法を開発することができれば、自分自身の不満や恨みによった関係性攻撃の行動（学校やネットいじめ）の予防が可能になると期待されます。

このような観点から、本年度は、日本語版シャーデンフロイデ尺度の作成及び関係性攻撃に焦点を当てたモデルの検証を行う予定です。頂いた助成金は、オンラインで行われる調査や実験の費用に活用させていただきます。本研究によって得られた結果は、学会発表や論文執筆によって報告いたします。

在学生活動支援事業報告

70周年記念事業において始められた在学生活動支援事業では、令和元年度、教育学部二十周年記念誌編纂事業を支援させていただきました。以下に、編纂事業からの活動報告をさせていただきます。加えて、元々は総会内で行っていただく予定であった報告について、今年度は、総会後に長めの時間をとって実施していただきました。こちらについても、ご報告させていただきます。

なお、令和2年度の在学生活動支援事業は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う学生生活支援事業のために全額用いさせていただきました（在学生向けの寄贈品のための予算も同様とさせていただきました）。

活動報告書

4月15日
代表 福島亮介

活動名

教育学部二十周年記念誌編纂事業

参加者

教育学部卒業生：福島亮介 岡村亮佑 藤田湧真 三浦紗英子

教育学部生：桑川薫樹 駒井優我 明石寛太 五十嵐結香 斎藤陸生 間宮萌由 守谷佳乃子 佐々木風美 菅谷直樹 高橋尚悟 吉田圭佑 和田幸大

活動目的

- ・形を変えて残ってきた教育学部祭の、現在における役割とその歴史の記録を残すため。
- ・20周年の記念として、学部祭をご支援くださっている関係者の方々への御礼の品として謹呈するため。
- ・学部生と近年の卒業生と京友会のつながりを強める契機とするため。

活動内容

〔2020年1月～2021年1月〕

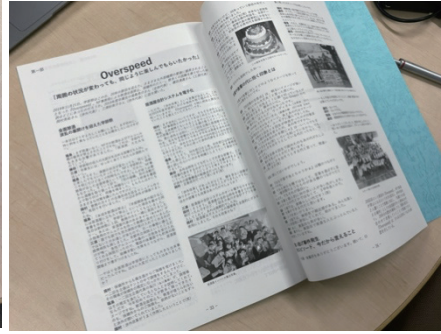
- ・各年の学部祭で中心に関わった卒業生へのインタビュー 20年分
- ・京友会会長山崎様、教育学研究科教務掛長宇野様、教育学部用務員古賀様、株式会社鳥米社長河原様、学部祭“復興”のきっかけとなった卒業生内藤様、曾和様へご寄稿依頼

〔2021年2月〕

- ・インタビューの編纂、校正作業
- ・冊子宣伝、受注

〔2021年3月〕

- ・発行手配
- ・発送作業



成果

- ・復興した2000年度学部祭から2020年度学部祭までの学部祭の様子、各年のメンバーによる運営方針などの変遷、写真等の記録20年分と上記ご寄稿をまとめた冊子の完成（別途冊子添付）
- ・インタビューにご協力いただいた36名の卒業生への謹呈含め、200冊をお渡しできたことによる、20年にわたる卒業生との交流

所感

深い経験のないインタビュー記事の編纂という活動内容に加え、インタビューを行ったのは就職・大学院進学していた卒業生メンバーなどを中心にごく一部であったため、20年分のインタビューを終えるのはかなりの期間を要した。編集作業も確固たるシステムがあるわけではなく、どうにか手探りで完成させた冊子は確かに手作り感あふれる出来栄えではある。しかし、インタビューにご協力頂いた卒業生やご発注頂いた卒業生からは、教育学部祭を通して「縦と横の繋がりを大切にする」という思いが受け継がれていること、教育学部を媒介とした新しいつながりが生まれたことに喜びと感謝の声を多数頂いた。おかげでこの活動が、学生、卒業生、教員、事務局などを含めた教育学部全体の輪をさらに広げ、深めるきっかけになれたように感じる。

（編集後記より抜粋）

多くの皆様方のご協力を得て、教育学部祭、正確には“復興”教育学部祭が無事20周年を迎え、記念誌発行の運びとなりました。インタビューにご協力いただいた方々、ご寄稿頂いた関係者の方々、そして今日まで学部祭を継承して下さった全ての先輩方に厚く御礼申し上げます。本記念誌が、学生の活躍・親睦の場としての、また卒業生の帰る場所、久々の交流の場としての学部祭の繁栄につながり、末長くこの文化が継承されていくことを希望いたします。今後開催の際に、学部棟に足をお運びいただければ嬉しい限りです。お待ちしております！

事業報告（2021年7月4日，総会后）

- 司会（久富） 今回、在学生活動支援事業において、教育学部祭二十周年記念誌編集委員会を支援させていただきました。本来は、この総会の場で簡単な報告をいただいただけなのですが、今回、ハイブリッド開催のために、予定していた講演ができなくなり、加えて、非常に素晴らしい二十周年記念誌になったので、少し長めに時間をとってご報告をいただくことにいたしました。それでは編集委員会の皆様、よろしくお願いします。
- 岡村 私は教育学部祭二十周年記念誌編集委員会で、現在修士課程の2年生の岡村亮佑と申します。よろしくお願いします。
- 糸川 同じく記念誌編集委員会の、学部4回生の糸川です。
- 藤田 同じく記念誌編集委員会、2020年度卒の藤田と申します。よろしくお願いいたします。
- 福島 同じく藤田、岡村と同期でこの企画を始めさせていただきました、福島亮介と申します。2020年度の卒業です。
この度、我々の興味本位から始まったような企画ではありましたが、京友会の皆さまのご支援と、京都大学教育学部同窓会の事務局、インタビューにご協力をいただいたOB・OGの方々にお世話になりまして、このような一つの冊子を創ることができました。今回、このような場をお借りして、お時間の許す限り、活動内容を報告させていただければと思います。よろしくお願いします。
- 藤田 会場の皆さまには、記念誌をお配りをさせていただいておりますので、眺めながら、気軽に聞いていただければと思います。Zoomでご参加の皆さまには、記念誌が表示してある共有画面を一緒に見ながら、製作時の思い出等についてお話させていただければ、と思っております。まずは、今回取り扱っている教育学部祭についてお話しさせていただきます。
- 福島 記念誌を一覧していただければ、大体のところは書かせていただいております。さて、教育学部祭というものが、そもそもどういったものなのかというのは、卒業生の方々にとっても、言葉としてなじみの深いものかと思えます。NF、つまり京大の11月祭の日程と並行して、教育学部棟の周りで開催している歴史的な学園祭という活動の位置付けであり、年に一度学部生を中心に進行している大規模で重要なイベントです。
一つ前提として話しておかなければいけないのが、90年代を境に、教育学部祭というものの実態が分かれています。今回の記念誌で追っている20年間は、90年代より後に再開・復興された教育学部祭の変遷を追ったものになります。
今回は、再開・復興された教育学部祭について、開催した代ごとに、代表をしていた3、4人の方々と連絡を取ることができまして、Zoomでインタビューを行いました。教育学部祭のそれぞれの年どのような学部祭をしていたのかということをもとめた記録、それがこの冊子になります。
こういった企画をしようと思った経緯について、教育学部はとても人数が少ない組織ですので、学年の“ヨコ”のつながりだけじゃなくて、“タテ”のつながりが非常に緊密になりやすいような特性があるというのは、たぶんご存じだと思います。僕らは3個上だけに限らず、4個上、5個上の先輩を知っているということがあり、それらの先輩方から、“先輩の先輩”のお話を聞くことはありました。こういったことが教育学部の特徴ではあったとは思いますが、それがもうだいぶ廃れてきた、薄れてきたというか、もうあまりそういった話を聞くことがなくなってしまったという実感がありました。
文字として残すこともないようなイベントですから、これは寂しいなど。そこで、ずっと連綿と続けてきた教育学部祭を一回、文字に起こすことで、どういったことを、どういった学生が、どういう思いで活動してきたのか、といったことが残せたらという思いで始めた次第です。
- 藤田 福島からの報告にあったように、学部祭、教育学部という組織を語る上で、特に近年は教育学部祭という一つのイベントを中心に、学部の“タテ”も“ヨコ”もつながりを持つと、一緒に活動

をしていく中で仲良くなるというのが根底にありました。こういった状況の中でこのような取り組みが風化していってしまうというのは、やはり我々としても寂しいものがあります。また、これを機会に先輩方と改めてつながりを持って、より“教育学部”というコミュニティを大切にしていけたらと思って、この活動をしております

この二十周年記念誌は2部に分けて制作をしてしております。第1部で、この2000年度から始まった復興学部祭、これもその2000年度の先輩のお話が聞けて、インタビューを通じて初めて分かったことまでございました。

こういったインタビューの内容を、各年度ごとに、各年の代表等を務めた方々との対話形式で編集して載せています。実は2001年から2003年の代は同じ担い手であるなど、どのような形で運営されていたかというのはバラバラです。しかしながら、以上の歴史をだんだんと追っていくと、たとえば「百花繚乱」の代からタイトルが出てきているというように、年度を追ってどのような変遷をしていったのかということが、読んでいけば分かるようになっていきます。実際にちょっと見てみましょう。

第1部は「各代のインタビューを通じてみる」ということで、復興学部祭の変遷を一からたどっています。具体的な内容を出しますと、上原さんという方が当時のOBの方とつながりがある方で、一回流れが途切れてしまった教育学部祭をもう一度やりませんかとOB側から持ちかけられたそうです。そこから今の原型となる教育学部祭、“復興”教育学部祭が始まったそうです。こういった内容を、どのような思いで上原さんが教育学部祭を始めていたか、一方で、インタビュアーである我々はどういうことが気になったかみたいところを聞きながら掘り下げていきました。

○福島 もう少し細かく取り上げますね。2000年の上原さんの学部祭は、復興するという意味で始めたというよりは、中断してしまった学部祭を一回だけのイベントでいいから開催しようというかたちでした。そのとき、上原さんに近い、教育学部外の友達も交えて一緒に開いたという経過があるので、これ自体が学部祭の、復興の始まりとは言えないんです。けれども、この後に続く2001年から2003年の藤木さんという方が、この上原さんの活動を見て、自分たちもこういうものを始めてみようということで、3年間続けてきました。この経緯がやっぱりすごい大きくて、単発で終わるイベントに留まらずに、後輩へと引き継がれるようになってきたのが非常に興味深いというか、学部祭にとって大きなことだったんじゃないかなと思います。

その後輩につながるという流れを経て、2004年から2007年度にかけて、身近な後輩につながるというところから、学部の“ヨコ”にどんどん広がって、一学年全体で学部祭を行っていくという流れになり、そして今度は一学年だけじゃなくて、3回生、4回生の2学年で行っていく。また「百花繚乱」という名前が付いたような代からは、多くを巻き込んで、1、2回生も含めた全体で行っていくようなイベントにどんどん昇華していったという経緯があります。

こうして、学部生の生活に大きな比重を占めるようになってきた学部祭が、毎年、卒業後も来られるということから、卒業した学部生の方たちも、後で後輩たちが主催する学部祭に入ってくる。11月の後半になって学部祭をやっているし、俺らもやっていたやつだし、後輩の様子も見に入っているのかなというかたちで、今の同窓会のような特色を持ちつつ、どんどん規模が大きくなっていったようなことが分かっています。記事でも、分かりやすくまとめられているんじゃないかなと思います。

○男性 すみません、質問いいですか。11月祭がありますよね。あれは教育学部も一緒に入っておられるわけですか。

○福島 11月に事務局で開催する11月祭と、我々がやっている教育学部祭というのは、それぞれ独立したかたちで開催しているということを、現在は公式に認定されています。11月祭で使っている、ステージで使うような機材を一時的に借りるなど、利用する関係にはあるんですけども、別個にして考えています。

一昨年、2019年も我々の代での学部祭があったんですけども、11月祭ではお酒の提供を禁止ということがありましたが、我々は明確なお酒の提供のガイドラインを示しながら、お酒の提供をそのまま続けていたりなどしておりました。

○男性 もう一ついいですか。11月祭も参加されて、教育学部祭も別にやる、ということは教育学部祭は年に2回やるんでしょうか。

○福島 11月祭と教育学部祭は日程は全く一緒なんです。例えば11月の21日から24日に11月祭があるとしたら、同じ教育学部祭も11月21日から24日で、同じ日程で開催していることになります。教

育学部生はどういう動きをするかということ、11月祭で出店するスタッフだったら、サークルで11月祭の方に参加したり、教育学部祭にも参加したり、という感じで動いています。

○男性 はい、分かりました、ありがとうございました。ちょっと関係が分かりにくかったもので。

○福島 そうですね、すみません。さて、ここまでは第1部の紹介でした。続いて、第2部の説明をしていきます。

○藤田 第2部では、いろいろな特集を組みました。

第1部ではそれぞれの学年、それぞれの年にスポットを当てて、この年はこういうような特徴があったかということ、その代の人たちがどんな思いを持ってやっていたかを伝えられるような形で編集しました。第2部では、それらをデータなどで、各代がどのように運営し、どのような思いを持っていたかなどを見比べるというような意味合いで、設定させていただいています。

第2部の最初に書いてあるチャートは、具体的には各代の人たちの思いとかいうものを反映しつつ、どのように運営をしたか、例えばOB・OGの方へのもてなしにどれだけ重きを置いていたのか。斬新さという観点からどのように学部祭を変えていったか。あとは実際にやってみて、どのような学部祭だったかというところを五角形で表したものです。

このチャート図を見ていただくと、いま映っている2012年の「一祭合祭」は、総合で全てのチャートをいっばいに評価している。自己評価にはなるんですけども、運営をしていた卒業生が自分たちの教育学部祭がすごく成功したものと考えているのだと思います。逆に、ちょっと反省があったかなと考えている代は、こういうことで計画性がなかったなと反省をしたりとか。代ごとの思いを見比べられるかと思います。

次の特集として、「もう一度みたいステージ企画」というものをつくっております。これについてはステージ企画とは何かということから説明をする必要があります。

現在、教育学部祭が当日の4日間で主にやっているものとしては三つです。

昼の1、2回生企画という、NFの他のサークルと同じような屋台を出店して、何か食べものを提供するというのが一つ。

もう一つは居酒屋といって、教育学部の学部棟を拝借して、会議室やラウンジを客席として装飾して、キッチンを中心に用意して、いろいろな料理やお酒を提供して、みんなで楽しむというものです。

そしてもう一つが、ステージ企画です。学部棟の前の駐輪場スペースに客席や特設のステージを建てます。そして、昼の1、2回生企画の屋台をやっている隣で、いろいろなものを見て楽しんで過ごしていただくというものです。

このステージ企画が学部祭の華でもあるので、こういうステージ企画がすごい面白かったとかいうのも卒業生の方からいろいろ聞いてます。「あかん、これは」というようなステージも結構あるんですけど。こういうものを見て、当時、学部祭に関わっていた人たちが見て、ああ、こういうステージ企画があったんだとか、懐かしんでいただけたら嬉しいな、といった思いで特集を組ませていただいております。

次に、教育学部祭の記念誌を創った今年の3月の段階では、新型コロナウイルスの関係で2020年度の教育学部祭が難しい状況にはなってしまうていたんですが、どうにかして次の代に続けて実施しようとしていました。2020年度卒業の代の人たちが、何をすべきかを考えて、次の世代につなげていく動きをしていたので、そちらも併せて特集というかたちで共有をさせていただいております。

2020年度の学部祭はZoom等を活用しプレ学部祭として実施をしたりとか、いろいろ苦心して活動をしておりました。今年度に関してもどういう形で学部祭ができるかは分かりませんが、今年度の代表の糸川から、今年の学部祭に関しても、ちょっとお話をさせていただければなと思っております。

更には「ご寄稿」という形で、いまいらっしゃる山崎先生を始めとして、教育学部に関わってくださっている様々な方々から、学部祭二十周年を祝してという形でご協力いただいております。

最後に編集後記とか巻末付録として、いままでのつくってきた、学部祭でつくってきたTシャツ等を見比べるページをまとめました。長くなりましたが、こういった形で教育学部祭の二十周年記念誌として、まとめさせていただきました。

○糸川 では、今年の学部祭について説明します。僕は、今4回生で、今年度の学部祭の代表を務めさせていただいております。去年も11月にやろうとして、3月にはできるかなと期待をして延期して、それでも対面でやることはできなくて。今回やっているような、Zoomで集まっておしゃべりをして、少し企画をして、最後に写真撮影だけでも一瞬だけでも集まって撮ってもらって、といったかたち

で実施しました。今年もちょっと、今の状況ではなかなか分からなくて、いま模索をしているところです。

去年すごく悔やまれたのは、これまでOB・OGの方とたくさん関わられるような企画をしてきたにもかかわらず、OB・OGの方をお呼びすることができなかったという点です。今年度はなんとか、外部の一般の方までというのは難しいかもしれませんが、教育学部OB・OGの方をなんとか呼べるかたちで企画ができればと考えております。ポストクネットワークとかでお知らせ等をお願いする機会もあるかもしれないので、そのときはどうぞよろしくお願いいたします。

○福島 以上でこの二十周年記念誌の活動自体は全てなんですけれども、こういったものをきっかけに、希薄になりつつある卒業生の方とのつながりも大切にしていければいいなという思いで制作しております。またこの冊子は1部500円で、まだ在庫がございますので、ご興味がありましたら、ご連絡をお待ちしております。ホームページでも受付しておりますので、ご連絡をいただければと思います。

最後になりますけれども、こういった冊子がつくれましたのは、皆さんの多大なるご協力のおかげです。この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

○司会 皆さま、本当にありがとうございました。素晴らしいものを制作いただいたことはもちろん、記録に残すということは本当に大事だということ意識した上でやられたということも、素晴らしいなと思いました。しっかりと図書館にも寄贈して、100年後でも、こういうことがあったと認識いただけるものだと思います。そういうものを残していただき、本当にありがとうございました。

追悼

東山紘久先生を追悼して

連携教育学講座（附属臨床教育実践研究センター）・准教授 松下姫歌

東山紘久先生が令和3年3月23日に永眠されました。前触れのない突然の訃報でした。太陽のような明るい笑顔、自然体の温かみと中立性が同居した美しい瞳、心理臨床学と実践に対する真摯な姿勢が思い出されます。

東山先生は、京都のお生まれで、京都大学教育学部、京都大学大学院教育学研究科の大先輩でした。長きにわたり心理臨床学界の発展と学問的深化を支えてこられた重鎮でした。附属臨床教育実践研究センター長、京都大学評議員、京都大学教育学研究科長・教育学部長、京都大学副学長として、京都大学の運営と発展に尽力された貢献者でもありました。その長年の功績に対し、令和2年に瑞宝中綬章を受章されたばかりでした。

東山先生の御活躍は多岐にわたるため、先生の薫陶を受けられた方々もまた、数えきれぬほど多くおられることと思います。また、東山先生は、心理臨床における豊富な実践経験と心理臨床学の探究に基づいた多くの著作を遺しておられ、専門家だけでなく一般の方にも広く読み継がれているベストセラーもお持ちであり、今なお、東山先生から学び支えられている方々が多くおられることと思います。私自身、学部生の頃からご著書を通してお世話になり、その後、大学院在学中はもちろん修了後もさまざまな形でたいへんお世話になりました。大阪教育大学ご在任中は、京都大学非常勤講師として臨床心理学教室の修士課程1回生向けのグループワークの集中講義をご担当頂き、心理臨床学の世界に本格的に足を踏み入れるための一つのイニシエーションになっておりました。そして、博士後期課程1回生の時、東山先生を附属臨床教育実践研究センターの初代教

授としてお迎えした時の嬉しさは忘れることができません。

東山先生は、子どもから大人まであらゆる方の心に、心で寄り添い、心の手でそっと触れて、愛でられる方でした。その人の苦しみに寄り添うというばかりでなく、その人の心が見ているもの、体験しているものを、心で受けとめ、キャッチされる方でした。そして、心に学ぶ、心の学徒としての姿勢を常にお持ちの先生でした。最終講義は東山先生の培われた心理臨床学をさらに一歩進めようとする問題意識に満ちているものでした。東山先生にはまだまだ教えて頂きたいことが沢山あります。東山先生の心への眼差しと姿勢に今後も学び続けたいと思います。長い間本当にお世話になり有難うございました。どうか今後も末永くお見守り下さい。東山先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

【東山紘久先生 御略歴】 昭和40年3月京都大学教育学部卒業、同42年3月京都大学大学院教育学研究科修士課程修了、同44年9月同大学大学院教育学研究科博士課程退学、同年10月同大学教育学部助手。昭和48年京都大学教育学博士。その後大阪教育大学講師、助教授、教授を経て、平成9年4月京都大学教育学部附属臨床教育実践研究センター教授。同10年4月同大学大学院教育学研究科附属臨床教育実践研究センター教授。同16年4月国立大学法人京都大学理事。同17年4月京都大学名誉教授。同20年9月まで学生担当理事。『遊戯療法の世界』（創元社）、『箱庭療法の世界』（誠信書房）、『教育カウンセリングの実際』（培風館）、『プロカウンセラーの聞く技術』（創元社）ほか著書多数。

追悼

江原武一先生の訃報に接して

教育社会学講座・教授 杉本均

本研究科元教授、京都大学名誉教授、江原武一先生はかねてより療養中のところ、2021年9月2日、80歳にて永眠されました。

先生は1983年に京都大学教育学部に赴任され、比較教育学講座（現教育社会学講座、比較教育政策学コース）の助教授、教授を務められました。2005年に退職されるまで22年間、教育学部と比較教育学講座の発展にご尽力され、多くの後進を育成されました。ご退職の後も学会をはじめ多くの場でのご活躍を耳にしておりましたので、この度の訃報に驚き、悲しみ、私たちを導く先導の光を失った思いです。

先生は、これまで記述的・歴史的方法が主流であった比較教育学の研究方法に、実証データの統計解析にもとづく社会学的方法を積極的に取り入れ、比較教育学の科学としての実証性・検証性の確立に大きく寄与されました。また当時未踏の研究対象であった高等教育を新しい学問分野として開拓し、関連学会や研究会の発展に尽力されてきました。そのなかで先生は、アメリカを中心とした高等教育の構造と変容の解明に努力されました。

東京大学理科Ⅱ類ご出身の江原先生はもともと理系肌で、多変量解析を中心とした大規模データ処理による日本の高等教育の構造分析で多くの業績を残されました。先生は日本比較教育学会、日本教育社会学学会、日本高等教育学会でも役員を歴任され、広く学会の発展にも寄与されました。また大学基準協会をはじめとする多くの学外委員会委員なども務められ、教育界、社会一般にも広く貢献されました。

私が江原先生のご指導を受けたのは、先生が助教授として赴任されてから、大学院の院生としてでし

た。その後、本研究科の助手・助教授として、先生のお手伝いをさせていただきました。私が参加させていただいた先生の主宰される研究会としては、アメリカの高校生の将来調査、多文化教育の国際比較、世界の公教育と宗教、高等教育の管理運営改革などの共同研究会があります。研究への姿勢は大変厳しく、若輩の私にはついてゆくだけで精一杯のところがありました。が、真実を求める真摯な姿勢、世界という大局を見る大きな視野など、先生から学ばせていただいた学問の世界は誠に大きいものがあります。先生が生前に残された数々のご功績を顧みるにつけ、かけがえのない方を失った哀惜の念に堪えません。江原先生のご逝去を謹んで悼み、生前の温かいご指導にあらためてお礼を申し上げますとともに、安らかにお休みくださいますようお願い申し上げます。

【江原武一先生 御略歴】昭和40年3月東京大学教育学部卒業、同44年5月東京大学大学院教育学研究科修了、同46年東京大学教育学部助手、同49年奈良教育大学教育学部講師、同50年同助教授を経て、昭和58年4月京都大学教育学部助教授（併任）、同59年4月同専任、平成4年8月同大学教授、同9年4月教育学部教育学科長、同15年京都大学評議員、同17年京都大学名誉教授、立命館大学教育開発・支援センター・教授、著書に『現代アメリカの大学—ポスト大衆化をめざして』（玉川大学出版部）、編著に『大学教授職の国際比較』（玉川大学出版部）、『多文化教育の国際比較—エスニシティへの教育的対応』（玉川大学出版部）、『世界の公教育と宗教』（東信堂）など多数。